

## 令和2年度 介護老人福祉施設サンリバー 事業報告

### 1、事業目標「質の高いサービスの提供」に向けた取り組み

#### ○タブレット端末の活用

新型コロナウイルス感染流行に伴い、訪問、面会規制を行ったためリモート面会の必要性が高まったのを受けタブレット端末の増台を図りました。かねてより電子カルテ用にタブレット端末を導入していましたが、カルテで用いるものは個人情報を含んでおり外部通信には不安を感じたため、新たに外部通信専用セキュリティを整えたタブレット端末を導入することとし、外部、内部と通信を分けた環境を整えました。

#### ○外国人技能実習生受入れの拡大

新型コロナウイルス感染流行に伴い直接現地での面接は行えませんでした。代わりに監理団体とリモート面接を実施し、予定通り5名に内定を出しました。すでに全員日本語検定試験は合格しており入国を待っていますが、感染状況を見極めたうえ、ワクチン接種を行い各施設に配置を予定しています。

#### ○資格取得への支援

令和元年度より介護職員1名を准看護資格取得に向け支援を行ってきましたが、無事に令和3年3月に取得いたしました。令和3年4月より介護、看護の双方の業務をこなしていますが、上記外国人技能実習生の加入後、体制が安定したところでさらに実務経験が積めるよう協力医療機関などへ研修派遣したいと考えております。

### 2、令和2年度事業実績

#### ○新型コロナウイルス感染防止対策について

令和2年度は当初から新型コロナウイルス感染流行に伴う緊急事態宣言が発令されており、全ての対外活動、集団活動を自粛し、職員、利用者の日々の体温管理、消毒作業の増回、感染対策物品の補充など感染症を持ち込まない、発生させない対策に重点を置いてきました。主な対策として各階に補助金を活用した陰圧装置を設置するとともに入口には間仕切りを設け防護服等が着衣できる前室を備えた感染者専用室を整備、各リビングルーム入口に二重の間仕切り、消毒スペースの設置を行い、そこで使用する各テーブルにもアクリル板を設置しました。人員体制では通常の消毒作業のみでは不安を感じたため、新たに消毒作業専用職員も1名雇入れました。万が一発生した場合でも消毒作業は外注に出すことなく自分たちで行えるよう程の備品、消毒薬も準備することができました。

令和2年度は幸いにも当施設を利用する利用者、職員から感染者は発生しませんでした。今後も油断することなく終息するまで緊張感をもち励みたいと考えております。

また、令和 2 年度は感染対策に重点が置かれたため利用者へのサービス制限がかかりました。この部分のメンタルケアも配慮し、質を損なうことなく新しい生活様式の定着に向け努めてまいります。

#### ○総括

令和 2 年度の事業実績は特養、ショートステイ事業が前年度並みの稼働率、デイサービス事業は前年度より稼働率が約 20%上がりました。居宅介護支援事業は増員に伴い 30%程利用者が増加しました。危惧された新型コロナウイルス感染流行の影響も少なく、雇用も安定したまま終えることができました。

令和2年度高齢者複合福祉施設スマイルコート黒田 事業報告  
事業目標「質の高いサービスの提供」

介護付有料老人ホーム・短期入所生活介護事業

1、介護部

- ・看護部との連携を密に行い、利用者様の異常の早期発見に努め、家族様へ早期報告ができるよう努めました。
- ・各委員会からの提案を多く取り入れ、職員全体の介護技術の向上を図りました。
- ・内部研修の実施、事故報告書・ヒヤリハット等の周知を通して、気づきや意識の向上を目指し、質の高いサービスが提供できるよう努めました。

2、看護部

- ・利用者様に寄り添った看護を心掛け、小さな体調の変化も見逃さず、早期発見・早期対応に努めました。
- ・医療依存度の高い利用者様には、医療機関との連絡を密にし、介護職員と連携を取りながら適切に対応しました。
- ・異常発見時、救急搬送等の際には、ご家族様とのコミュニケーションを密にとり、臨機応変に対応できるよう努めました。

3、事務部

- ・来訪者の方と「最初に接する場」であることを認識し、挨拶・言葉遣いに気をつけ丁寧な対応を心掛けました。また、介護部・看護部と情報を共有し、来訪目的の把握に努め迅速な対応を心掛けました。
- ・電話での受け答えは、明るい声ではっきりした口調で対応するよう心掛け取り次ぐ際には、お待ち戴くことがないようスムーズに行うよう努めました。
- ・栄養職員は、利用者様の意見や要望をもとに食事の面でより良いサービスを提供できるように心掛けました。
- ・共有スペースの清掃の徹底を図り、施設環境の整備に努めました。

デイサービス事業

- ・利用者様一人一人と向き合い、それぞれの状況・状態・ニーズを把握し、自立支援に向け、個別的な対応に努めました。また、利用者様の強みに着目し、意欲や生きる喜び・生きがいを見いだせるよう支援しました。
- ・研修や勉強会等を通して、職員の意識、技術の向上を図り、安全で安心できる介護を提供できるように努めました。

高齢者向け優良賃貸住宅事業

- ・入居者様に対し積極的な声かけ・挨拶を行い、日常的な会話を通してコミュニケーションを図り、併せて体調の把握に努めました。

## 令和2年度 児童養護施設「宇宙」 事業報告

令和2年度 法人目標「質の高いサービス」のもと、児童養護施設「宇宙」として、下記の方針を掲げ、目標に向けて取り組みを実施しました。

### 1. 目標に向けた取り組み

- ① 「質の高いサービス」提供のため、職員個々のスキルアップに取り組む予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、施設内・施設外研修が中止されたため目標は達成できませんでした。ただ、令和3年1月から限られた職種における施設外研修で動画配信がなされるようになり、今後は、児童指導員や保育士へも拡大が予定される中、積極的に参加させるとともに施設内研修も新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極め開催することで、引き続き養育能力の向上を努めます。

また、児童相談センター・学校・保護者との連携のもと、緊急事態宣言下では各機関や保護者に外出・外泊の自粛について案内を送付しました。

なお、情報の共有化や具体的な支援方針については、児童相談センター等の機関と密接な連携のもと、子どもの自立、安心・安全な生活の保障及び学校生活が楽しく送れるよう支援に努めました。

さらに、家族と子どもとの交流を増やす機会の推進は、新型コロナウイルス感染防止の観点から今一つの感はありましたが、緊急事態宣言期間外において児童相談センターに働きかけ、感染予防対策の徹底を図りながら、一部児童には面会の回数が増えるなど若干ではありますが成果を見ることが出来ました。

- ② 今後、ますます増えることが予測される職員への暴言、器物破損、支援への抵抗・拒否等様々な問題を抱え、生活の安全を保つことができない養育困難児について、児童相談センターと密接な連携のもと子ども一人ひとりの気持ちや傷つき、発達段階等のアセスメントに基づいて、その子どもが最も安心できる職員との距離や一緒に過ごす時間を確保するため、養育困難児がいるユニットでは、可能な限り2人体制にする等養育支援を強化し、社会への自立に向け主体性を尊重した個別的養育の展開を図り、一定の成果を見ることが出来ました。